

A portrait of a man with dark hair, smiling, wearing a dark blue V-neck scrub top and a blue lanyard. He is positioned in the center-right of the frame. The background is a brightly lit hospital corridor with large windows and a circular architectural element on the left.

小柳 穩

-Yasuki KOYANAGI-

独立行政法人
国立病院機構
いわき病院

『神経難病と理学療法』

小柳 穂 -Yasuki KOYANAGI-

- ◎ 所属：独立行政法人国立病院機構いわき病院
- ◎ 入学期：大学5期生
- ◎ 出身地：新潟県



Q1. PTをめざそうと思ったきっかけは？

高校生の時にバレーボール部に所属していました。プレー中に怪我をした時にコーチにやさしくも的確に処置していただいたことがきっかけで興味をもち始めました。鬼のように怖いコーチだったので余計に素晴らしく見えたかもしれません。

Q2. 神経難病の方への理学療法の特徴について教えてください。

私の病院は、神経難病の患者様を中心に理学療法を提供しており、下肢型のロボットスーツを導入しています。ロボットスーツを用いることで歩行が難しくなってきた方も歩行練習が可能で、操作者が生体電位部位の探索、アシスト量やバランス量、運動量の設定等を適切に調整することで理想的な歩行練習ができ、歩行能力改善に繋がります。これは解剖学や運動学、生理学等の知識を有した理学療法士だからこそできることだと思います。

Q3. 高校生・在学生へのメッセージ

転勤前は急性期病院で心臓リハビリテーションに従事していました。どの疾患でもどの病期でも、エビデンスを元に適切な評価と治療と行うことは同じだと思います。文化学生時代に勉強も遊びも一生懸命だったことも今に活きているかもしれません。